

プレスリリース

NPO 法人 大気イオン地震予測研究会 e-PISCO

平成 17 年 3 月 24 日

報道関係各位

福岡県西方沖地震の前兆を捕捉 ～岡山理科大学の大気イオン濃度が異常値～

特定非営利活動法人大気イオン地震予測研究会（理事長：わたつみ きよし 弘原海 清 =大阪
市立大学名誉教授・岡山理科大学元教授）では、2005 年 3 月 20 日 10 時 53 分
に発生した福岡県西方沖地震(M7.0)の前兆と思われる大気イオン濃度の異常を
捉えることに成功しました。

当法人の岡山理科大学測定点では、通常 1,000～2,000(個/cc)前後で推移して
いる大気イオン濃度が、発震 3 日前の 17 日午後に急上昇し、最大で 2000 年鳥
取県西部地震とほぼ同規模の 9,789(個/cc)に達しました。詳細につきましては、
解説資料をご覧ください。

報道関係各位には、本件の周知にご協力いただきますようよろしくお願いいたします。

NPO 法人 e-PISCO の詳細につきましては、ホームページをご覧ください。

<http://www.e-pisco.jp/>

本リリースの問い合わせ先

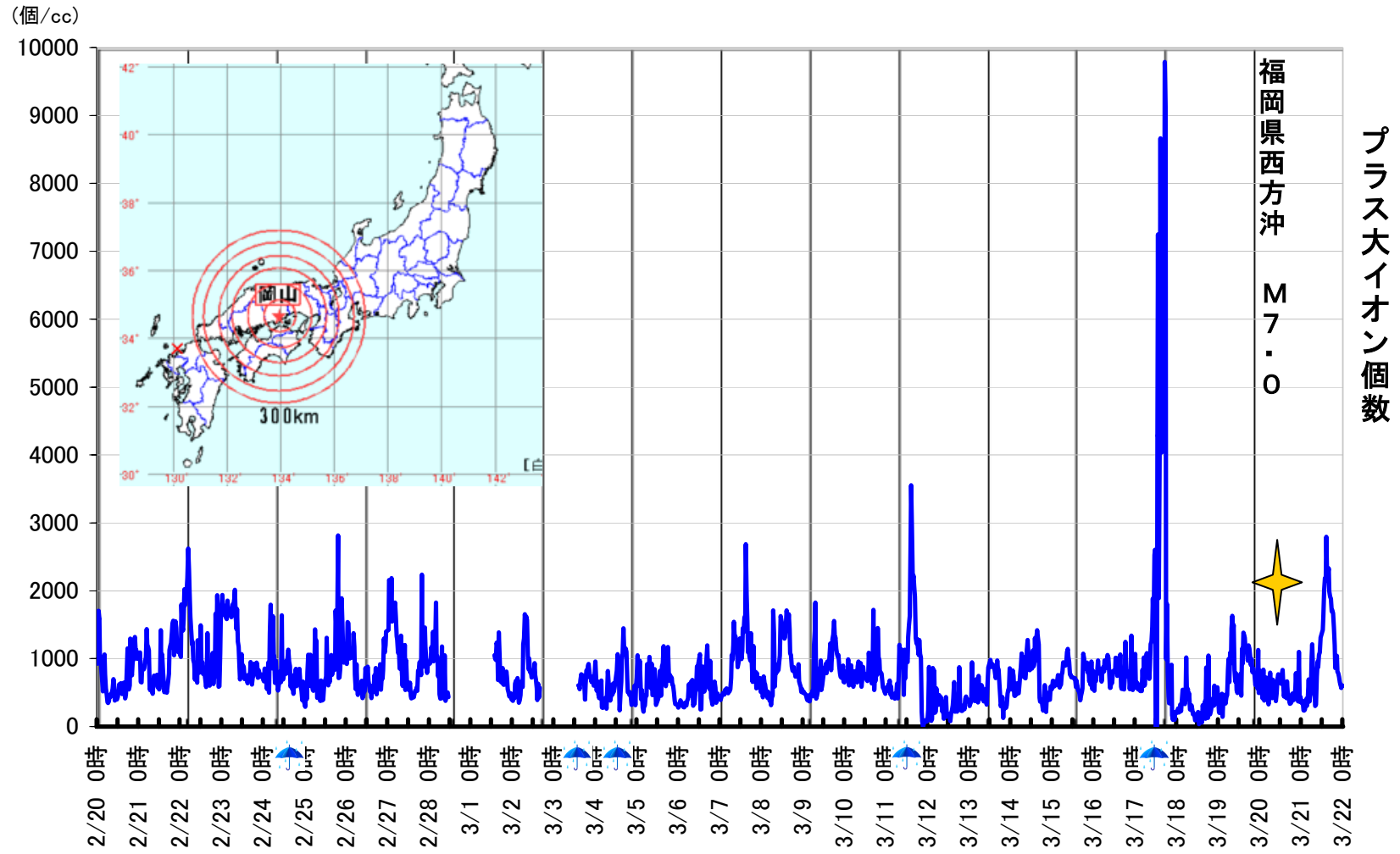
NPO 法人 大気イオン地震予測研究会 e-PISCO 事務局

〒700-0081 岡山市津島東 2 丁目 2-9-5-102

TEL:080-5236-6409 FAX:086-256-6468

E-mail:npo@e-pisco.jp

解説資料



1. 大気イオン濃度変化(岡山理大測定点)

- ① 岡山理大から今回の地震の震央までは 351km で、経験的に e-PISCO が有効としてきた範囲の外側である。
- ② 3月11日と17日のイオン濃度上昇は地震前兆であるが、降雨によるレナード効果の影響も受けている可能性がある。
- ③ 7年間活用してきた神戸電波製の測定器は、オーバーホールのため3月下旬をもって使用を中止する。
- ④ 4月以降は岡山理科大学に新開発の測定器を設置し、大イオン、中・小イオン濃度の計測データを、ホームページに自動的に掲載する予定である。

2. 宏観異常現象

e-PISCO に報告された情報としては、広島市西区で3月16日夕刻に西の空に異常な雲が目撃されたほか、福岡市博多区で17日に雲の異常、18日にCDプレイヤーの異常、19日にカラスの異常が、また大分県臼杵市では19日に異常な雲が観察されている。

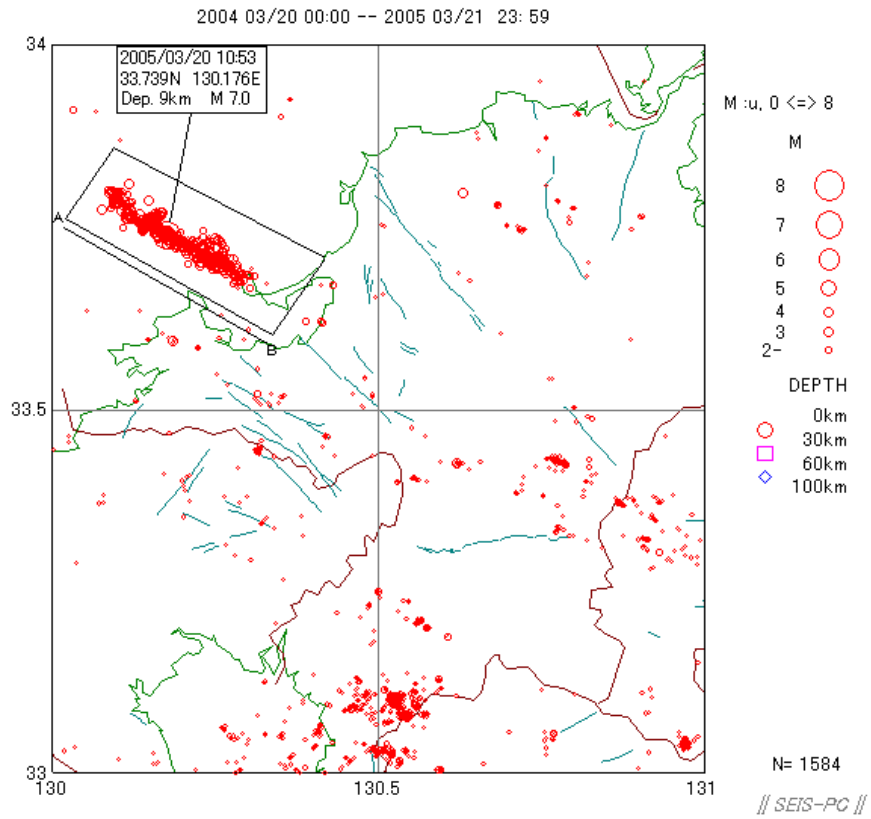
また、報道によると、昨年6月に福岡市から北九州市にかけての沿岸や大分県別府市で、今年3月1日には長崎県小浜町で深海魚のサケガンシラが目撃されている。

3. 地震活動(一元化震源)

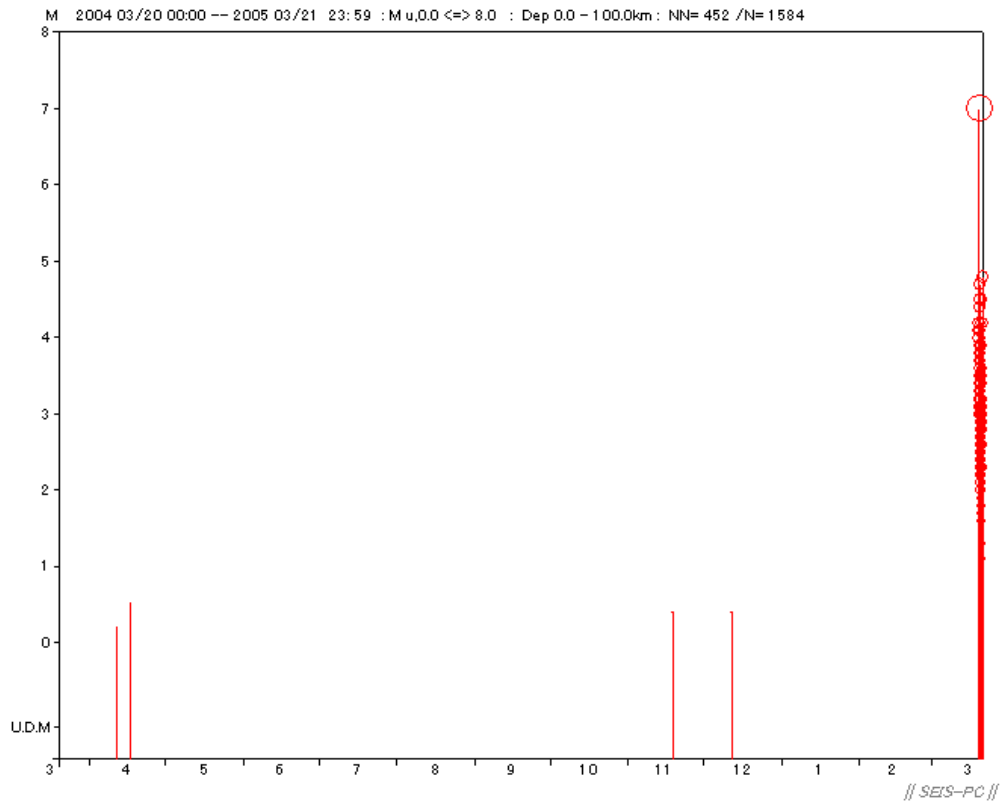
- ① 下図のとおり、今回の震源付近は地震活動が低調なところであり、前震と思われる地震は認められない。
- ② 3月20日の本震以後、西北西一東南東の断層面による横ずれ断層の余震活動が続いている。
- ③ 余震域の外側にはほとんど地震活動が認められない。
- ④ 歴史的にも大きな地震がないところだと言われている。

4. 結論

- ① 今回の地震の震央は地震活動がまれな場所であり、M-T 図からは本震の時期を推察するのは甚だ難しい。
- ② 大気イオンについては有効範囲の 300km を超え、なおかつ震央が海域であるためイオンを検知することが難しい条件である。
- ③ 1地点のデータでは地震前兆的なイオン発生場所を特定するのは難しい。
- ④ 多地点観測で特に中国西部・九州・四国に測定点があることが望ましい。
- ⑤ NPO e-PISCO では多地点観測に向けて、測定点を増やすよう努力している。



▲最近 1 年間の震央分布図



▲震央分布図の矩形内の地震発生時系列推移(M-T 図)